

興動館教育プログラムの成果と課題

—学びの相互作用の視点から—

梶 本 伸 悦

1. 研究の概要

1.1 研究の背景と目的

2006年度から広島経済大学は、「『ゼロから立ち上げる』興動人の育成」を教育目的に掲げ、社会科学系の大学教育を抜本的に見直す新しい教育プログラム「人間力開発プログラム」を全学的にスタートさせた。「ゼロから立ち上げる」興動人とは、「既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神、そして仲間とともに何かを成し遂げることのできる力を備えた人材」である。具体的には「基礎知識開発プログラム（授業）」「プレゼンテーション能力開発プログラム（ゼミ）」に加え、新たに「人間力開発プログラム」を加えた3つの教育プログラムで「ゼロから立ち上げる」興動人を育成していくことになった。

「人間力開発プログラム」は、主に学生が主体的に活動をするための施設である「興動館」で展開されるため、「興動館教育プログラム」とも呼ばれており、学内外でもそのプログラム名が知られるようになってきたので、本論では「興動館教育プログラム」の名称を使うこととする。「興動館教育プログラム」の構成としては、実践を通じて知識やスキルを身につける「興動館科目」と、行動することによって自らの成長につなげる「興動館プロジェクト」の2つで成り立っている。このプログラムの特徴は「興動館科目で学んだことをプロジェクトの場で実践する」とことと「プロジェクトの場で必要性を実感し学ぶ」とことの相互作用にある。この密度の

濃い2つの学びの相互作用を通じて、広島経済大学では教育目的である「ゼロから立ち上げる」興動人に必要な「人間力」を育成している。

興動館教育プログラムがスタートして10年が過ぎ、次の10年に向けてさらなる発展を期するための改革・改善の時期にきている。そこで、本論では、興動館科目と興動館プロジェクトの学びの相互作用の効果や課題を検証し、興動館教育プログラムのさらなる充実化に寄与することを目的とする。

1.2 調査の対象と方法

調査としては、2016年度の興動館プロジェクトに登録している学生520名を対象として、広島経済大学のポータルサイトであるHUE NAVIを通して、対象者に調査の協力を依頼し、ポータルサイトを介して回収をする。なお調査期間は2016年8月19日から8月31日とする。

1.3 調査の目的と内容

調査の目的は、興動館科目と興動館プロジェクトの学びの相互作用の効果を検証することとし、調査の名称は、「興動館科目と興動館プロジェクトの相互作用に関する調査」とする。調査の主な内容は、プロジェクトに参加した理由について（質問：「プロジェクトに参加した理由を教えてください」）、プロジェクト体験による学びの必要性について（質問：「プロジェクト活動をしていて、大学の授業で学ぶことの必要性を感じたことがありますか」）、興動館科目を履修した理由について（質問：「興動館科目を履修した理由を教えてください」）、プロジェクトに関する興動館科目での学びや実践について（質問：「プロジェクトで必要なことを興動館科目で学び、実践できましたか」）、プロジェクトに関する興動館科目以外の科目で学びについて（質問：「プロジェクトで必要なことを興動館科目以外の科目で学び、実践できましたか」）、興動館教育プログラムに期待していること（質問：「最後に、興動館教育プログラムに期待していることが

あったら教えてください)とした。調査の内容は、筆者と興動館職員が作成したものである。今回の調査に使用した調査票は、資料として本論の最後に添付したので参照してほしい。

2. 調査の結果と考察

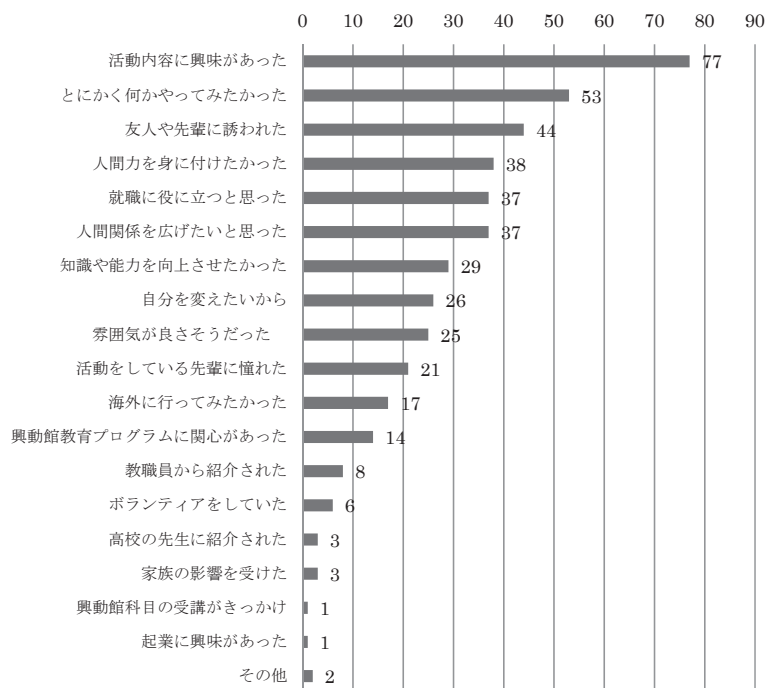
今回の調査の結果としては、興動館プロジェクトで活動している157名の学生から協力を得ることができた。性別は男性119名女性38名、学年は1年生80名2年生44名3年生28名4年生5名、学科は経済学部55名経営学部57名ビジネス情報学科5名メディアビジネス学科20名スポーツ経営学科20名であった。プロジェクトに関しては、全てのプロジェクトから回答があった。今回の調査の結果と考察は、以下の通りである。

2.1 プロジェクトに参加した理由について

プロジェクトに参加した理由についての質問（有効回答数157名）で、理由として多く挙げられたのは「活動内容に興味があった」で77名、「とにかく何かやってみたかった」が53名、「友人や先輩に誘われた」が44名ということであった。「興動館科目がきっかけ」は1名という結果であった。その理由としては、①興動館科目の受講生は、単位取得が主目的でプロジェクト活動を意識している学生が少ないこと、②興動館科目でプロジェクトの勧誘を積極的にしていないこと、③プロジェクトに参加している学生の比率が低いことなどが考えられる。

2.2 プロジェクト活動による学びの必要性について

プロジェクト活動による学びの必要性についての質問（有効回答数157名）では、「非常に感じた」が28名（17.8%）、「感じた」が103名（65.6%）、合わせて83.4%の学生が、プロジェクト活動を通して大学の授業での学びの必要性を感じているという結果だった。ちなみに「あまり感じなかった」が23名（14.6%）、「全く感じなかった」が3名（1.9%）であった。この結

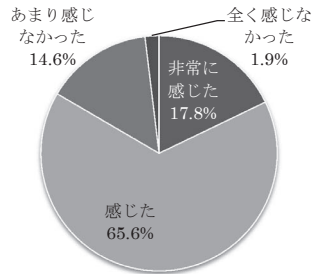


【図1：プロジェクトの参加理由】

果から、学びの相互作用の「プロジェクトの場で必要性を実感し学ぶ」ということに関しては、プログラムの目的通りの結果を得られた。その理由としては、①実社会での接点が多く、これまでの知識・経験だけでは対応できない状況になっている、②目的・目標を達成し成果を生み出すには、実践的な運営方法について学ぶことが求められる、③異年齢集団としての関係性を保つための、高いコミュニケーション能力が必要となってくることなどが考えられる。

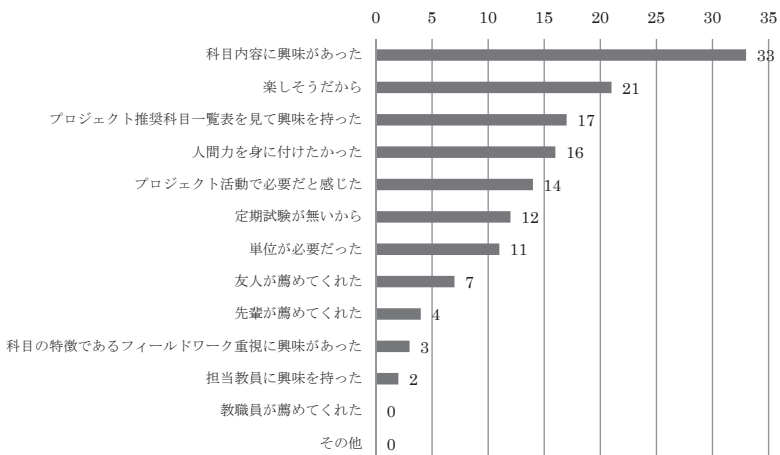
2.3 興動館科目を履修した理由について

プロジェクトに参加していて、興動館科目を受講した経験がある学生は157名中77名（49.0%）であった。その77名に対して、受講理由について



【図2：プロジェクト活動による学びの必要性】

質問（有効回答数77名）したところ、最も多い理由としては「科目内容に興味があった」が33名（42.9%）,「楽しそうだったから」が21名（27.3%）,「プロジェクト推奨科目一覧表を見て興味を持った」が17名（22.1%）であった。「プロジェクト活動で必要だと感じた」という学生は14名（18.2%）で、前項2.2の結果であるプロジェクト体験による学びの必要性を感じている学生の多さと比較すると、プロジェクト活動で感じた学びの必要性が興動館科目の受講理由になっている比率は低かった。その理由として、①プロジェクト活動に直接活かせるような興動館科目が少ない、②プロジェ

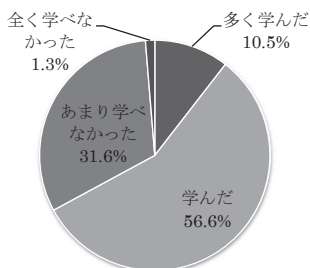


【図3：興動館科目の受講理由】

クトと興動館科目との相互作用を意識している学生が少ないということが考えられる。

2.4 プロジェクトに関する興動館科目での学びや実践について

前項2.3の興動館科目を履修した理由に引き続き、興動館科目を受講した経験がある学生77名に対し、実際にプロジェクトに関する興動館科目での学びや実践があったかどうかについて質問（有効回答数76名）したところ、「多く学んだ」が8名（10.5%）,「学んだ」が43名（56.6%）,「あまり学べなかった」が24名（31.6%）,「全く学べなかった」が1名（1.3%）という結果であった。



【図4：興動館科目の学びと実践】

さらに、「多く学んだ」「学んだ」と回答した人に対して、「プロジェクト活動のどのような時に学ぶ必要があると感じたのか」という質問をしたところ、「プロジェクトの会議の時」と「人とコミュニケーションをとる時」が7名,「企画を立てる時」が4名,「プレゼンテーション能力のなさを痛感した時」「リーダーになる時」「人間関係を広げたい時」「人間力が向上した時」「目上の人と関わる時」が2名であった。そして「実際に学べることができた科目名と学んだことおよびどのような時に実践されたのか」という質問に対しては,「コピーライティング実践講座」「ビジネス・シミュレーション・ゲーム」が4名,「ハワイと広島から学ぼう!とびだせ

国際人」「企画力養成講座」「スポーツによる広島活性化講座」「瀬戸内海地域の魅力を発信しよう」「戦略マネジメントゲーム」が3名、「興動館プロジェクトと企画力」「興動館プロジェクトの計画と実施」「これからのリーダーシップ」「スポーツで学ぶ共生力」が2名という結果であった。

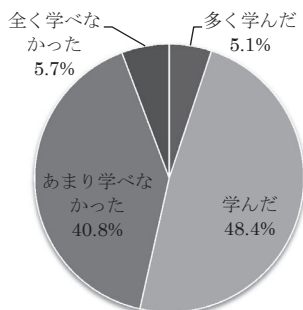
また、「どのような時に実践されたのか」という質問に対しては、「プロジェクトの会議の時」が8名、「コミュニケーションをする時」「イベントを実施する時」が3名、「イベントの企画を立てる時」「プレゼンテーションを行う時」が2名という結果であった。

一方で、「あまり学べなかった」「全く学べなかった」と回答した人に対して、「どうして学ぶことや実践できなかったと感じたのか、その理由を教えてください」という質問したところ、「プロジェクトとの関連性を考えずに受講した」が2名、「プロジェクトによって問題ややり方が違う」「プロジェクトの活動内容と授業内容は関係性がない」「教員の話聞くだけの授業だった」「大学から遠い」「自らが主体的ではなかった」「授業にあまり積極的に参加することができなかった」「活かす時がなかった」「創造力以外のプログレスシートの項目は私が受講した授業では身に付け難いものだと感じた」「(科目の内容が) 難しかった」が1名という結果であった。

2.5 プロジェクトに関する興動館科目以外の科目での学びについて

プロジェクトに関する興動館科目以外の科目での学びについての質問(有効回答数157名)では、「多く学んだ」が8名(5.1%),「学んだ」が76名(48.4%),「あまり学べなかった」が64名(40.8%),「全く学べなかった」9名(5.7%)という結果であった。「多く学んだ」「学んだ」という割合は、興動館科目は67.1%, 興動館科目以外の科目は53.5%で、比較すると興動館科目の方が「プロジェクトで必要なことを学び、実践できた」という割合が13.6%高かった。

さらに、「多く学んだ」「学んだ」と回答した人に対して、「プロジェク



【図5：興動館科目以外の科目による学びと実践】

ト活動のどのような時に学ぶ必要があると感じたのか」という質問をしたところ、「資料を作る時」が5名、「コミュニケーションをとる時」が3名、「リーダーになった時」「イベントを企画する時」「イベントの実施する時」「会議の時」が2名という結果であった。

また、「実際に学ぶことができた科目名と学んだことおよびどのような時に実践されたのか」の質問に対しては、「情報処理入門Ⅰ・Ⅱ」が3名、「マーケティング論」「情報処理基礎」が2名であった。「どのような時に実践されたのか」という質問に対しては、「プロジェクトの会議の時」が4名、「イベント活動の時」「広報する時」が3名という結果であった。

その一方で、「あまり学べなかった」「全く学べなかった」と回答した学生に対して、「どうして学ぶことや実践できなかったと感じたのか、その理由を教えてください」という質問をしたところ、「関連した内容の科目がなかった」「プロジェクトに活かせる科目を受講していなかった」が10名、「学んだことを実践する機会がない」が4名、「科目の内容が対応していない」「プロジェクトで（科目で学んだことを）活かそうと考えながら行動していない」「学ぼうとする気持ちがなかった」が3名、「プロジェクトと結び付けられなかった」「参加して間もないのでよく分からない」が2名という結果であった。

2.6 興動館教育プログラムに期待していること

調査票の最後に興動館教育プログラムに期待していることについて質問をしたところ、「普通の授業じゃ学べないことを学ぶことができる」「今のプロジェクトで楽しみつつ、学んでいます」「十分なサポートを受けさせて頂いているので、あとは自分次第だと思います」といった学びや支援の実感や、「一人一人が意識高く、自覚をもち、向上していける人だけの集団になってほしい」といったチームへの期待を記述した学生もいたが、これからのプログラムの具体的な取り組みについて記述していた学生も多かったので、以下にまとめる。

まず、個人の能力に関しては「将来的に役に立つような、コミュニケーション能力などの人間力を身に着けたいです」「仲間を増やし、コミュニケーション能力をもっと身に着けたい」といったコミュニケーション能力を高めたいという意識が高かった。さらに「将来企業に入社した時に社会人基礎力を興動館で身につけ、新人ではなく入社した時から、ベテランの人と同じ能力を身に付けたいです」とった社会人としての能力全般の向上を目指したいという学生もいた。

次に、新しい取り組みに関してだが、講座・研修では「メンタルケア」「新しいプロジェクトを作りたい人のための講座」「スポーツを通して得た楽しみや喜びを多くの人に還元できる講座」「会議の回し方や、人間的確に指示出す力を身に着けることができるようになるプログラム」「リーダーシップ研修会などのような学びの活動を増やす」「リーダー、副リーダー、部署リーダー、その他のメンバーのお互いの気持ちや苦勞を理解できる講座」といった要望があった。また、プログラム全体では「もっと社会人の人と話す機会があると良い」「ゼミごとでの取り組みを増やす」「さらに沢山のひとと話せる環境」「色々なことに挑戦できる環境」について記述してくれた学生もいた。さらに、「プロジェクトの活動や成果の比較ではなく、学生個人の成長を適切に評価してほしい」といった要望の記述もあった。

3. 結論と課題

興動館教育プログラムが実施している学びの相互作用について、調査と分析をしてきた。本節ではこれまで実施した調査に基づいて、その相互作用についての結論と課題をまとめる。

まず、「興動館科目で学んだことをプロジェクトの場で実践する」という作用であるが、「2.4 プロジェクトに関する興動館科目での学びや実践」の結果から分かるように、興動館科目を受講した学生の10.5%が「多く学んだ」、56.6%が「学んだ」と回答しており、回答者の3分の2以上が学びを実感しているが、「2.1 プロジェクトに参加した理由について」の結果から分かるように、興動館科目がきっかけでプロジェクトに参加した学生は、1名ということなので、この作用に関して、量的には有効に作用していないと言える。しかし、「多く学んだ」「学んだ」と実感している学生の中には、興動館科目で学んだことをプロジェクトの「会議の時」、「コミュニケーションをする時」「イベントを実施する時」に実践できたと回答しているので、「興動館科目で学んだことをプロジェクトの場で実践する」という作用の可能性は十分あると考えられる。

次に「プロジェクトの場で必要性を実感し学ぶ」という作用に関してだが、「2.2 プロジェクト体験による学びの必要性について」の結果では、83.4%の学生がプロジェクト活動を通して大学の授業での学びの必要性を感じているということで、プロジェクトの場で必要性を実感していて、その必要性についての学びはあったと考えられる。しかし、「2.3 興動館科目を履修した理由について」で触れたように、興動館科目の受講生の少なさや受講理由から、プロジェクト活動が科目受講への意識やつながりには至っていないことが分かった。

学びの相互作用を高めるための今後の最重要課題として考えられることは、プロジェクトの活動内容と科目の授業内容の関係性を高めることである。そのためには、まず、学生と教職員が学びの相互作用の意識を高める

必要がある。2012年度から興動館プロジェクト推奨科目一覧表を作成し、教務ガイドに掲載したり、コーディネーターが科目を紹介したりしていて、一定の効果は上がってきているが、今回の調査結果からみるとこれだけでは不十分ということが分かった。今後は、説明会・研修会・入門ゼミ等で、学生や教職員に対する学びの相互作用への意識を高めるための具体的な取り組みが必要である。次に、興動館科目自体もプロジェクトの実践で活かすことができるような内容の科目を増やすことも検討したい。特に、興動館科目をプロジェクトに参加していてプロジェクトの実践で活かせるような科目群とこれからプロジェクトに参加したり、立ち上げたりしたいという学生のための科目群とに分けるといった工夫も必要であろう。さらには、プロジェクトの経験や成果を分析・集約したものを大学内で共有することの必要性も感じる。優れたプロジェクトの実践を、興動館科目や興動館科目以外の科目の授業の事例として利用できるようになれば、授業への興味関心や理解度もさらに高まるだろう。このような取り組みが、広島経済大学の教育目的の達成に近づく方策の一つと考えられる。

謝辞

今回の調査を実施するにあたって、興動館職員と興動館プロジェクトの学生メンバーには多大なるご理解とご協力を頂きました。ここに感謝の意を表します。これからの広島経済大学の益々のご発展と興動館教育プログラムの更なる充実を祈念しております。

参 考 文 献

- 広島経済大学興動館『興動館教育プログラム10周年誌』広島経済大学出版会 2016.
広島経済大学興動館『興動館教育プログラム 自己点検評価書』広島経済大学興動館 2017.

<資料>

アンケート内容

興動館科目と興動館プロジェクトの相互作用に関する調査

【ご協力をお願い】

この調査は、興動館の教育プログラムをより充実させるため、興動館科目と興動館プロジェクトの相互作用の効果を明らかにすることを目的としています。

この調査は、個人情報保護法に準拠し、調査結果はすべて数値化し統計的に処理されます。またすべての回答は、興動館教育プログラムの評価と改善の資料としてのみ利用し、回答者である皆様の個人情報や秘密が漏れることは決してありません。どうか本調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

【回答方法】

回答では、各設問で最もあてはまると思われる数字や項目に○印をつけてください。また記入する箇所には適切な字句を書いてください。

【質問項目】

1. はじめに、あなたご自身について教えてください。(必須)

性 別	男 ・ 女
学 年	() 年生
学 科	() 学科
プロジェクト名	() プロジェクト

2. プロジェクトに参加した理由を教えてください。(複数回答可) (必須)

- ・ 人間力を身に付けたかった
- ・ 活動内容に興味があった
- ・ とにかく何かやってみたかった
- ・ 知識や能力を向上させたかった
- ・ 興動館科目が受講のきっかけ
- ・ 教職員から紹介された
- ・ 活動をしている先輩に憧れた
- ・ 友人や先輩に誘われた
- ・ 高校の先生に紹介された
- ・ 家族の影響を受けた
- ・ 雰囲気が良さそうだった
- ・ 興動館教育プログラムに関心があった
- ・ 就職に役に立つと思った

- ・ボランティアをしていた
- ・海外に行ってみたかった
- ・起業に興味があった
- ・人間関係を広げたいと思った
- ・自分を変えたいから
- ・その他 ()

3. プロジェクト活動をしていて、大学の授業で学ぶことの必要性を感じたことがありましたか (必須)

よく感じた	感じた	あまり感じなかった	全く感じなかった
4	3	2	1

4. 興動館科目をこれまで受講したことが ある→5から回答してください。(必須)
ない→7から回答してください。

5. 興動館科目を履修した理由を教えてください (複数回答可)

- ・人間力を身に付けたかった
- ・プロジェクト活動で必要だと感じた
- ・プロジェクト推奨科目一覧表を見て興味を持った
- ・教職員が薦めてくれた
- ・友人が薦めてくれた
- ・担当教員に興味をもった
- ・科目内容に興味があった
- ・科目の特徴であるフィールドワーク重視に興味があった
- ・楽しそうだから
- ・単位が必要だった
- ・定期試験がないから
- ・その他 ()

6. プロジェクトで必要なことを興動館科目で学び、実践できましたか

多く学んだ	学んだ	あまり学べなかった	全く学べなかった
4	3	2	1

- ・「多く学んだ」「学んだ」と回答した人は、プロジェクト活動のどのような時に学ぶ必要があると感じたのか、そして、実際学ぶことができた科目名と学んだことおよびどのような時に実践されたのか簡単に書いてください。

【どのような時に学ぶ必要があると感じたのか】

【科目名と学んだこと】

【どのような時に実践されたのか】

7. プロジェクトに必要なことを興動館科目以外の科目で学んだことがありましたか（必須）

多く学んだ	学んだ	あまり学べなかった	全く学べなかった
4	3	2	1
<div></div>			

・「多く学んだ」「学んだ」と回答した人は、プロジェクト活動のどのような時に学ぶ必要があると感じたのか、そして、実際学ぶことができた科目名と学んだことおよびどのような時に実践されたのか簡単に書いてください。

【どのような時に学ぶ必要があると感じたのか】

【科目名と学んだこと】

【どのような時に実践されたのか】

・「あまり学べなかった」「全く学べなかった」と回答した人は、どうして学ぶことや実践できなかったと感じたのか、その理由を教えてください。

8. 最後に、興動館教育プログラムに期待していることがあったら教えてください。

質問はこれで終わりです。
調査へのご協力、本当にありがとうございました。